

市民ネットワーク 市議会速報

2022年
10月17日発行

会派 市民ネットワーク

川口えみ 松島こずえ 五十嵐ともみ

8月市議会 (8/29 ~ 9/28)

新型コロナウイルス

発熱外来につながらない！

第7波で感染者急増

8月の市内新型コロナウイルス感染者は、過去最多の5223人。自宅療養者も過去最多でした。発熱し電話をしても医療機関につながらず、自己判断で自宅療養するしかない人が多発。市民ネットワークにも相談が多数寄せられました。



抗原検査キットには、医療用と研究用があります。必ず、「医薬品」と明記されたものを使いましょう。

市内で公表している発熱外来は18医療機関。市内の内科・小児科の総数は55医療機関なので、約3割。少なすぎます。

9月議会で質問したところ、市は「医療機関の予約が取りづらいことは把握している。医療機関が逼迫しないようにすることが市の役割」と答弁。発熱外来を増やす取り組みを何も行っておらず、発熱して電話をかけ続け、途方にくれた市民のことを全く考えていません。

他市は独自施策があるのに…

八千代市では、発熱外来を増やすため、市内医療機関に独自の助成金を支給しました。発熱外来として登録し公表すると、最大40万円が支給されます。佐倉市も、このような市独自の取り組みをすべきと決算委員会でも求めましたが、やる予定はないとの一点張り。

野田市は陽性者登録センターの開設、浦安市は小中学生に抗原検査キットの無料配布と、他市は独自で様々な施策を次々に行っていますが、佐倉市だけ未だ何もありません。

コロナ感染の波はいつまた来るか、わかりません。次のピークに備え、発熱外来を増やすなど、市独自でできることを考え、実行するべきです。

5億3千万円コロナ交付金返還問題

職員の事務手続きミスによるコロナ交付金の返還問題は、佐倉市を大きく揺るがしました。再発防止策として、今まで一人でやっていた事務処理を二人体制で、また複数人によるチェック体制の徹底強化を求めてきました。しかし、市に人員を増やす姿勢はありません。

これでは再発防止は不可能です。

また、防止対策をまとめた検討会は職員のみで議論し、最終報告書を公表しましたが、十分に検証されたか疑問です。今後、外部から弁護士や専門家等を入れた第三者評価機関を設置すべきと主張しました。

旧統一教会とのかかわりを徹底調査し公表を！

昨年8月に行われたピースロードという自転車イベントに、市長が参加。出発式で挨拶し、職員2名も同行。



佐倉市HP
西田市長フォトレポートより

このピースロードの主催は、実は旧統一教会関連団体でした。さらに、前回の市長選(2019年)の時、旧統一教会の佐倉支部に選挙応援を依頼していたのです。僅差での勝利に疑問が湧きます。また、今年の参院選の際、教団に自民党の井上候補の応援依頼をしたこともわかりました。市長は「旧統一教会とは知らなかった」とのことですが、入口に大きな看板がかかっているので一目瞭然。

「過去も含めた旧統一教会とのかかわりを調査し、対処する予定があるか」と決算委員会で質問しましたが、答弁なし。9月8日、徹底的に調査し公表するよう、9人の議員で市長に要望書を提出しました。